

あなたの胃は大丈夫？

ABCリスク検査を受けましょう！


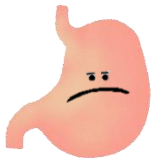




ABCリスク検査は、血液で胃がんのリスク*を測定できる検査です



ABCリスク検査とはピロリ菌感染の有無と胃の萎縮度を測るペプシノゲンの組み合わせにより、胃がんになるリスクをA～Dの判定により評価する検査です。

胃がんは99.9%ピロリ菌が原因とも言われており、ピロリ菌に感染すると胃の萎縮が進行していきます。

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌抗体	—	+	+	—
ペプシノゲン	—	—	+	+
胃の健康状態				
胃がんリスク	低			高

ピロリ菌は免疫力が不十分な幼少期に感染し、大人になってから感染することはほとんどありません。

また、除菌後の再感染は極めて稀です。

そのため、ABCリスク検査は一生に一度受診すればよい検査とされています。

Q.検査の結果、もしA群以外だったら…？

A.今回の検査結果をもって必ず医療機関を受診しましょう。

平成25年2月より、内視鏡を検査によって「慢性胃炎」と診断された方も保険適用でピロリ菌を除菌できるようになりました。除菌治療で胃がんのリスクを3分の1程度減らすことが可能です。

またA群だった場合も、胃がんリスクは低いですが定期的に胃部X線検査（バリウム検査）や内視鏡検査を受診しましょう。（検査基準値により偽A群と判定される方がいます。）

*ABCリスク検査はがん検診ではないため、確定診断はできません。

胃酸分泌抑制薬を服薬中の方・胃を切除された方・腎不全の方・既にピロリ菌を除菌された方・過去にABCリスク検査を受診された方は、ご受診いただけません。